

技術士第二次試験に向けたガイダンス・北陸本部講演会・第一次試験・第二次試験合格祝賀会

日 時：2022年6月4日（土）13：30～18：30

会 場：ホテル日航新潟、ガイダンスのみWeb併催

参加者：ガイダンス35名（うちWeb15名）

講演会33名、祝賀会26名

内 容：

ガイダンス前半では、小林秀一教育広報委員長から「技術士制度が求める人物像とは―技術士・技術士制度とキャリアアップ―」と題し、技術士の社会的重要性や合格への道のりなどについて解説があり、村山達也青年技術士交流委員長からは、青年委員会の1年間の活動内容の紹介があった。

ガイダンス後半の体験発表では、「二次試験合格体験談」（建設部門―鋼構造及びコンクリート、(株)キタック 門口健吾さん）、「二次試験合格体験談～あきらめない強い思い、感謝～」（建設部門―道路、(株)キタック 相田守さん）、「技術士への道」建設部門―施工計画、施工設備及び積算、(株)興和 月岡 浩さん）の3題の発表があった。印象に残った言葉は、門口さんの「技術士は、技術者として技術者として飯を食べていくには当たり前的称号」、「持てる専門技術力を応用駆使し、落としどころをデザインするのが技術士としてのリーダーシップ」。相田さんの「一を以って之を貫く。これからもそうありたい」、壮絶な受験勉強の経験の話、「合格後は上司、家族への感謝しかない」。月岡さんの「技術士への猛烈なあこがれ」、「技術士を理解することで合格することができた」である。

この中堅技術者3名による合格体験発表からは、改めて単なる受験テクニックだけでは合格は非常に難しく、技術士という資格の持つ意味、その社会的責任、そして周囲への気遣いと感謝の想いがなければ合格できないことが伝わってきた。これから受験する若い技術者だけでなく、ベテラン技術士にとっても初心に帰ることができた大変良い発表であったと感じている。



門口さん

相田さん

月岡さん

一方、講演会では、新潟県福祉保健部部長の松本晴樹部長に「新型コロナウイルス感染症の現状と課題」と題して、国際比較、新潟県の状況などについてご講演頂いた。松本部長は厚生労働省から新潟県に来られている方であり医師でもある。まず、国際比較については患者数より超過死亡数を見るべきであり、日本は命と経済の両立を考えながらまあまあ上手くいっているという。また、新潟県も上手くいっていて、陽性者の少なさは全国8位、死者は全国3位、ワクチン接種率も全国1位、時短日数も政令市最短レベルとのこと。医師不足と言われる新潟県で上手くいっている理由は、新潟大学を中心とするオール新潟の医療機関の連携にあるという。どの分野においてもコミュニケーションが非常に重要であるのだと感じた。



新潟県福祉保健部 松本晴樹 部長

例年、新潟会場では2月に第二次試験合格者ガイダンスを、そして6月に有資格者懇談会を開催してきた。しかし、どちらの行事も参加者の減少傾向が止まらないことから、試行的にこれらの行事を統合してみた。今後も少しでも広く参加者を集められるような魅力ある企画にしていきたいと思う。

（事業委員長 坂東和郎）